



SANJO ROTARY CLUB

三条ロータリークラブ

週報 No. 43

2011.6.1 (No.2640)

第2560地区ガバナー／東山 昕也
会長／樺山 仁
会長エレクト／山田 富義 (クラブ奉仕A)
副会長／杉山 幸英 (クラブ奉仕B)
幹事／明田川 賢一
S A A／若槻八十彦
会計／松永 一義

例会日／毎週水曜日12:30～
例会場及び事務局／
三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内
例会場／TEL 34-3311
事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail: sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
(へはshiftを押しながら“へ”のキーを
押してください)

■本日の出席会員数:52名中38名
■先々週出席率:75.00%

【ヴィジター】

米山奨学生
ジャック・テイオ・ヨー・チオ君

【先週のメイクアップ】

- [5.27] 吉田RCへ
・加藤紋次郎さん
- [5.31] 三条北RCへ
・五十嵐昭一さん



「地域を育み、大陸をつなぐ」

2010～2011年度国際ロータリーのテーマ

「金鶏菊」



会長挨拶

樺山 仁 会長



御挨拶致します。

5月末のファイヤーサイドの勉強会も終
わり、木の芽もいよいよ吹き出す6月とな
りましたが、なんとなく例年の様な感じ
ではなく、日本国中災害後の色々な事柄で後
を引いている様です。

日本の経済活動も通常に戻る事が出来ず、
傷跡を押さえながらの様で、将来に対しての目標が定まらず、
日本の景気の悪さに国民も不安と不信で、毎日ただ時に追わ
れているだけの様です。

我々クラブの約一年間の担当としての仕事に、満足出来た
ものではありませんでしたが、この一年を通しての経験は
とても大切な事の連続の様気が致しまして、クラブの全体
を見る事、会員の事、各セクションの会員の立場の事が脳裏
に浮かんで来ますし、クラブを良く知る上には、必ず全員が
各セクションを担当する事なんだと思っておりました。

私は私なりに色々考えて担当して来たのですが、会員の各
セクションの方々の御協力には、全く感謝でございます。

私の担当の一年の中で特に感激しましたのは、台湾の新竹
城中クラブの義援金の提供の事。この様な多額の金額に、全
く感謝の念としか表現出来ぬと思いました。

災害援助に対しては、次期山田年度でも援助は必要でし
ょう。我々ロータリークラブとして、ロータリアンの一人として、

頑張らなくてはならないと思います。

会員増強はなかなか進みませんでした。RCの事が未だ理解出来ていない方が多く、今後の問題としてどうやって認知度を上げるかが、一番大切と思われま

各会員一人一人が一人の友人に対してRCの事をお話し頂き、知名度を上げながら、会員増強に向けての事が大切だと思います。

ローターアクトの社会奉仕活動は、定例の行事をこなしている様です。そして、ローターアクトの40周年記念式典も、この6月26日に行なわれますので、よろしくお願いします。

改めて御報告ですが、過日私の卓話、三条の職人さんと言う話の中で「刃物の見方」と言う本について話しましたが、岩波ではなくて、思い違いであります。三条金物青年会より出版、野島出版製作で2700冊出版され、金物組合員のバイブルとなっております。再版を期待しておりますが、皆様にも一読の価値があると思います。

私も競馬の第4コーナーを廻りましたので、次期山田さんにバトンタッチをする時がすぐそこに来ました。やっと楽々しております。

山田さんが次のハードルを越える事を切に希望しまして、挨拶を終わります。

幹事報告

明田川賢一 幹事

◎三条クリーン協議会より

「構成団体代表者会議のご案内」

日時 6月9日(木) 12:00~13:30

会場 三条商工会議所 4F 特別会議室

◎石本ガバナー・エレクト事務所より

「2011-12年度 インターアクト年次大会のご案内」

大会テーマ【自然と遊ぼう、友と語ろう】

日時 7月17日(日)~18日(月・祝日)

会場 チャレンジランド杉川(五泉市)

◎地区国際奉仕委員会より

「2012-13年度 一年交換学生募集のお願い」

派遣先(予定) アメリカ、ドイツ、ブラジル、タイ 他
資格 ①応募出発時ともに高校在学中の19歳以下の者

②学業成績が中位以上の者 他

申込方法 青少年交換委員会事務局に申込書を請求し、10月末日必着で返送

2011年11月中旬 選考試験(予定)

派遣期間 2012年8月下旬 出発、受入

費用 渡航に関する費用(往復運賃等) 他

募集人数 約5名

◎次週6月8日(水)は、第4分区 山田AGの「第1回クラブ訪問」です。

ニコニコBOX

樺山 仁さん

いよいよ最終日が参りました。長かったような短かったような気持ちです。

米山さんの卓話が楽しみです。よろしく願います。

山田富義さん

クラブH入口前のNTT柱移設完了しました。夜の街が元気になるように。

米山会員、卓話ありがとうございます。

米山智哉さん

今日は卓話です。よろしく願います。

斎藤弘文さん

総会の多い月が終わりました。おいしいお酒をたくさん飲ませていただきました。

菊池 渉さん

三条新聞には斎藤さんの顔ばかり載るのかと思っ

ていましたら、今朝は山田さんと合田さんでしたネ。

川瀬康裕さん 小越憲泰さん

都合により早退させていただきます。

丸山行彦さん、 杉山幸英さん、 熊倉昌平さん、
藤田紘一さん、 渡辺勝利さん、 浅野金治さん、
高橋 司さん、 若槻八十彦さん、 荻根澤隆雄さん、
田中 仁さん、 船越正夫さん、 西山徳芳さん、
阿部吉弘さん、 会田二郎さん、 渡辺良一さん、
中村光一さん

米山会員、本日は卓話ありがとうございます。

楽しみにしております。

6月1日分 ￥24,000

今年度累計 ￥1,040,000

親睦委員会からのお知らせ

『会長幹事慰労会』

◇日時 6月29日(水) 18:30~

◇会場 二洲楼

卓 話

「父昇と創業」

米山智哉 会員



大陸のな ヨネヤマシール印刷は私の父米山昇が昭和47年に創業いたしました。父が亡くなってから10年になりますのでここ最近の新入社員は創業者を全く知りません。創業にはそれなりのドラマがあり苦勞があるので

当社の社員である限り知っておくべきだと思い、ホームページのブログに創業のいきさつや創業者の人となりを載せるために原稿を書き始めたところ、ちょうど卓話の機会をいただいたので卓話の内容もこれにさせていただきます。おかげさまで一気に筆が進みました。

父は昭和8年の世界不況のただなかに下田村笹岡に生まれました。私の祖父は茅葺き屋根を葺く職人で、家はそうとうな極貧でした。別に使用人や奉公人がいるわけではなく、屋根を葺くときには方々に人手を頼んで梃子をお願いしたり、はざ木を借りて足場を組んだりでようやく屋根が葺けるというような状況だったようです。つまりは自分一人では何もできなくてほとんど人の力や資材を借りて仕事をしていたために一軒の屋根を葺いても出ていくお金が多くて手元に残るのはわずかでした。しかも一年のうち仕事のできる期間は田植えが終わってから梅雨入りまでの1カ月足らずと秋口のわずかな期間しかありません。借金をしてはその年の数件の仕事でやっと返して、返した端からまた借金が始まるといったような生活でした。

こんな貧乏屋根屋の棟梁でも子供のしつけには相当うるさかったようで、父はまるで侍の子のようにしつけられたそうです。食事のときなど、祖父は囲炉裏のそばの畳で食べられても祖母と父は板敷きに正座で、ごはんのお代わりを待つ間は静かに待ち、待っている間に箸でも持とうものなら火箸が飛んできたようで、貧乏ながらもだらしのないふるまいは一切許さなかったようです。

父は中学校を卒業すると三条市内の印刷会社に住み込みで就職することになります。この住み込み時代にその印刷会社の創業者から目をかけられ何かと用事を言いつかります。その理由は小さい時から祖父から受けた侍の子のようなしつけにあったようで、なにせ「行儀がいい」ということだったらしいです。休みの日は他の住み込みの人たちは出かけられても父だけは朝から用事を言いつかって遊びに行けなかったこともしょっちゅうでした。ところがこれだけい

ろんな仕事を言いつかると他の住み込みの人たちよりも格段に仕事の覚えが早く、持ち前の勤勉さと祖父譲りの職人としての素質と相まってめきめきと腕を上げていきます。いくらしないうちに職人として若手のリーダー格になっていきます。しだいに会社にとってなくてはならない職人になるのですがやがて転機が訪れます。

そのころには住み込みも卒業して三竹1丁目に中古住宅を買い、母ともめぐり会って結婚したころだったのですが退職を決意します。退職の理由はいろいろあったようですがトップが代替わりの時期にあったことと無縁ではなかったようです。次に行くあてもなく退職してしまったのですが腕の良さは回りにも聞こえていたので辞めるならうちへ来てくれというところが2、3あって、その中でも若手を育成してほしいと熱心に誘ってくれた燕の印刷会社に転職を決めます。辞めてすぐ移ると引き抜かれた格好になって新しくいくところに迷惑がかかると悪いと思い、先方には1カ月ほどぶらぶらしてからいきますということで了解してもらいました。

家にいて幾日もたたないうちに、陸王という大きなオートバイに乗った一人の男性が家へ訪ねてきます。「うちに新しい印刷機入れたんだが誰も動かさんねえで困ってんだ。教えてやってくんねかね。」と訪ねてきたのは先年亡くなられた関マーク製作所の創業者、関正吉さんでした。父は二つ返事でわかりました明日から行きますとあって、翌日から約1カ月毎日通って印刷機の動かし方から印刷のし方まで教えます。その間、父と関さんの間でお金の話は一度も出たことがなく、父も報酬のことは全く考えていなかったそうです。

こののち父は燕の印刷会社も辞め、長岡の印刷会社からやはり若手の育成にということで請われて行くのですが、しだいに「このまま終わるのは嫌だ。独立したい」と強烈に思うようになります。独立するにはどうしたらいいかを相談できるのはあの人しかいないと思い関正吉さんに相談に行きます。

関さんに「独立したいんだがどうしたらできますかね」と聞くと「じゃあ来月うちに新しいシールの機械が入ってくるからそれをあんたに回すわね。ただし仕事は自分でとってきなせや。機械の代金は毎月少しずつ返してくればそれでいいね。」と言って小型の平圧式シール印刷機を回してくれます。父は急ぎよ自宅の一部屋をつぶしてセメントを張ってそこに印刷機を入れます。ここに社員一人、小さな機械1台のヨネヤマシール印刷がほそぼそとスタートを切ります。

仕事の確かさと約束を守る仕事ぶりで徐々に仕事が増えていきます。やがて一人では回らなくなり母に看護婦を辞めさせ仕事を手伝わせ、そのうち機械も1台では足りなくなって新しい機械が必要になります。ところが1,000万円近くする印刷機を買える余裕はまだなく、まして自宅の狭い土地しか資産のない父に銀行も融資をしてくれません。銀行からは保証人がなければ融資は難しいと言われ、それでも何としても機械を入れたい一心で再び関正吉さんを訪ねます。「関さん、おかげさまで仕事も増えて融通してもらった機械も順調に回っているのですが、新しい機械がどうしてもほしい。厚かましいお願いで申し訳ないのだが何とか銀行の保証人になってもらえないだろうか。」とお願いすると、関さんはあっさり「あぁいいよ。明日また来てくれね。印鑑証明取っておくから」と言われました。当然断られるだろうと覚悟していた父は、あまりに簡単に引き受けてくれたので「本当にいいんですか」と言うと、関さんは「米山さん、私はあんたのことは100%信じるよ」と言ってくださったそうです。父はあまりの感動で言葉もありません。そうです、父が一切報酬の話をせずに1カ月印刷指導をしたことで、関正吉さんは父の人間性を見抜いて絶対の信頼を置いてくれていたのです。現にその後何かの席で「あの時一日いくらで話をしていたら今のあんたと私の関係はなかったらなあ」と笑っておられたそうです。その後もたびたび関さんが保証人を引き受けてくださったおかげで順調に機械も増やせ人も増えていきます。もちろん父は「関さんにだけは迷惑はかけられない」という一心で会社を伸ばし、現在に至ります。

ヨネヤマシール印刷はまさに父と関正吉さんの信頼関係がなければ生まれなかった会社です。私はこの話を思い出すたびに、仕事は情熱と信頼関係、志と人間性なんだと思い知らされます。自分自身にも皆にも、お客様との信頼関係、取引先との信頼関係、そして社員相互の信頼関係のために日々仕事に励もうと話をしています。

次週例会 6月15日 クラブ・フォーラム
山田富義 会長エレクト

次々週例会 6月22日 会員卓話(予定)

